

鹿児島県プロ人材拠点

3行庫のOB活躍

【鹿児島】鹿児島県プロフェッショナル人材戦略拠点では、地元金融機関OB3人が中心となって人材不足に悩む事業者をサポートしている。拠点を開設した2016年から24年11月までに569件の人材マッチングを成約させたが、このうち60・8%（346件）は金融機関を通じて持ち込まれた相談案件だった。

同拠点は、地域企業の経営課題解決に合致した専門人材を全国から募集しマッチングすることで、営業力の強化や成長戦略の実現を支援している。県内約

20の人材紹介会社と連携しており、常勤か副業・兼業の形態での働き手を探す。南日本銀行、鹿児島信用金庫、鹿児島相互信用金庫のOB3人は、「人材活用支援専門員」として企業ニーズのヒアリングや人材採用の必要性の有無を含めた経営アドバイスをを行っている。他県では中小企業診断士などが担うことが多いが、「金融機関が一番企業を理解している」（同拠点）ことからOBを活用する。

3人は、それぞれ勤務していた金融機関から紹介された案件を主に担当する。ヒアリングを通して企業の人材ニーズなどをまとめたシートを作成し、募集をかけるという流れ



打ち合わせをする（左から）野元さん、有村さん、塩屋さん（11月28日、かごしま産業支援センター）

だ。

企業訪問時には、金融機関の営業担当者や支店長と同行する。企業の安心につながり経営課題などの把握につなげやすいという。「現役の担当者の視点やOBの経験などを踏まえた多方面からアドバイスができる」（南

日本銀OBの野元慶一さん）ことも強みとなっている。

鹿児島市内で畳を製造する事業者は、需要の減少に危機感を抱き鹿児島信金を通じて同拠点に相談。同信金OBの塩屋文和さんが経営内容を精査したうえで、販路拡大をサポートしてくれる人材を募集し、大手重工業メーカーの企画担当者と業務委託契約を結んだ。これにより、福岡県のホテルなど数件の販路拡大が実現。売り上げが1割程度増加したという。

鹿児島相互信金OBの有村吉弘さんは、「中小・零細企業は人材不足が喫緊の課題で、倒産・閉鎖につながりかねない。地元企業・産業をお手伝いすることが重要」と話す。